

事業名：郷土資料デジタル化事業

郷土資料館 文化財係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実								
施策	04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造								
基本事業	03 文化・歴史遺産の保存と継承								
開始年度	平成23年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

郷土資料館収蔵等映像資料

手段（事務事業の内容、やり方）

フィルム等アナログ映像資料をデジタルデータに変換する。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

デジタル化によって、劣化等による閲覧不可な状態を回避し、映像資料を永く後世に伝える。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	デジタル化対象資料数	点	29	29	20	20
対象指標2						
活動指標1	デジタル化実施資料点数	点	29	0	6	15
活動指標2						
成果指標1	デジタル化完了率（%）	%	100	0	30	75
成果指標2						
事業費(A)		千円	243	0	215	168
正職員人件費(B)		千円	2,408	0	1,172	1,174
総事業費(A+B)		千円	2,651	0	1,387	1,342

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	指定文化財「野幌太々神楽」のフィルム等アナログ映像資料をデジタルデータに変換する。	・データ編集変換経費 215千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
郷土資料館に収蔵している映像資料は、往時の江別の様子を記録した貴重なものである。フィルム資料は経年による劣化が懸念され、一度消失すると二度と復元できない。また、昨今の映像メディアの進歩・変化によってオリジナルの資料を再生することが困難になりつつあり、資料の特性上、再生ごとに劣化する危険も生ずる。本事業では、これらの資料をデジタル化することによって映像資料の保全をはかり、かつ活用の利便性を図ることを目的とする。	
事業を取り巻く環境変化	
経年による映像資料の劣化。映像メディアの進歩・変化に伴い、資料の再生が困難になりつつある。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由根拠 郷土の歴史を物語る映像資料を末永く閲覧可能な状態に整備することは市の役割である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input type="checkbox"/> 貢献度大きい <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由根拠 郷土の映像資料を保全することを目的とする本事業は、基本事業「文化・歴史遺産の保存と継承」に貢献するものである。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由根拠 そのまま放置しておけば劣化する映像資料をデジタル化することにより利用しやすい状態で保存することができている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由根拠 デジタル保存に値するアナログ資料が郷土資料館にまだ存在し、今後寄贈等で増える可能性もある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由根拠 大学と協働するなどしてコストを抑えて事業を展開していることから、現状以上のコスト軽減は難しい。